

表5 - 6 (1) ある環境特性で行われる環境要素に関する調査・予測の際の主な留意点
(サンゴ礁が存在する海域)

環境特性 項目	影響要因 環境要素	工事の実施		
		水環境		大気環境
		水質		騒音・振動
		水中照度	濁り・堆積物	騒音・振動
サンゴ礁が存在する海域である存在する類型：サンゴ礁	想定される主な影響	・濁りの発生に伴う水中照度の低下、懸濁物の堆積 ・サンゴ類の生育阻害又は死滅及び現存量の低下 ・サンゴ礁の生態系の機能(避難場、育成場等)の低下		
	調査・予測に関する留意点	主な把握事項	・サンゴ礁の分布状況 ・サンゴ礁に蛸集(依存)する生物の生育・生息状況 ・対象海域の濁りの分布、変動状況 ・工事による濁りの発生状況、拡散状況、堆積状況	
	留意点等	・バックランドの濁りの状況により、影響の度合いは異なる。 ・工事により発生する濁り発生位置、発生時期等により影響の度合いが異なる。 ・対象海域の底質の状況によっては、浚渫等による底質変化に伴い、底質からの溶出を考慮する場合がある。 ・海底工事等を行う際、騒音・振動の発生状況によっては、魚類への影響を考慮する場合がある。 ・濁りに強い種へ移行した場合、単一化形状のサンゴ類(球状)が多くなると考えられることから、サンゴ礁へ蛸集生物が減少する可能性があり、生育場等の機能低下をもたらす。		

注) 1. 気象(日照、降水量)については、人為的な行為でないことから除外している。

2. 「環境への負荷」は、海域の生態系についてほとんど影響がないと考えられることから、この例では除外している。

表5-6(2) ある環境特性で行われる環境要素に関する調査・予測の際の主な留意点
(サゴ礁が存在する海域)

環境特性	項目	影響要因	土地又は工作物の存在及び供用								
			水環境						その他	大気環境	
			水質				その他		地形及び地質	騒音・振動	
			水質	水中照度	濁り・堆積物	水温	塩分	波浪	流動	干出時間	地形・基質
サンゴ礁が存在する 海水域である 存在する類型： サゴ礁	想定される主な影響	<ul style="list-style-type: none"> ・水温、塩分、水質(栄養塩)、濁りの変化に伴う水中照度、流動の変化 サゴ類の生育環境変化 生態系の機能(避難場、育成場等)の変化 ・生息基盤の変化による干出時間の変化 生物生育空間の変化 生態系の機能(避難場、育成場等)の変化 ・工作物等の存在による生物生息空間の減少 サゴ類の現存量の変化 生態系の機能(避難場、育成場等)の変化 									
	調査・予測に関する留意点	主な把握事項	<ul style="list-style-type: none"> ・対象海域の流動、波浪、水温、塩分、水質、流入負荷量及び施設からの排水による負荷量の状況 ・生物の生息状況及び生息基盤等の生息環境の状況 ・生態系の構造と機能の特性 ・埋立等による改変区域 						留意点等	<ul style="list-style-type: none"> ・この環境特性の生態系の機能の特徴としては、「場(避難場、育成場等)」と「環境形成・維持(酸素の供給等)」、「物質循環」、「緩衝(消波機能等)」であると考えられる。これらの機能に関連し、評価が可能な生物種(群集)の選定が重要となる。 ・対象海域の汚濁状況、汚濁機能により影響の度合いは異なる。 ・供用時の騒音・振動の発生状況によっては、魚類への影響を考慮する場合がある。 ・温排水の場合は、対象海域の水温の分布・変動特性、取排水の位置により影響の範囲が異なる。また、水温の上昇及び取水の連行による生物の高温障害、忌避を考慮する。 ・濁りに強い種へ移行した場合、単一化形状のサゴ類(球状)が多くなると考えられることから、サゴ礁へ蝟集生物が減少する可能性があり、生育場等の機能低下をもたらす。 ・短期的及び中長期的に影響する項目及び範囲を考慮する。 	

注) 1. 気象(日照、降水量)については、人為的な行為でないことから除外している。
2. 「環境への負荷」は、海域の生態系についてほとんど影響がないと考えられることから、この例では除外している。